

日本に影響を与えた中国の天文暦学者伝 (3)

利瑪竇

マッテオ・リッチ (Matteo Ricci, 漢名利瑪竇, 1552~1610) 鎖国前の日本及び明末からアヘン戦争までの中国で、数理学を中心とした西欧科学を伝えたのは、カトリックの一派であるイエズス会(中国では耶蘇会という)の宣教師であった。ヨーロッパでは16世紀以降プロテスタント運動が盛んとなり、これに脅威を感じたスペイン人のイグナチオ・ロヨラやフランシスコ・ザビエルなどがカトリックの革新を意図してパリで設立した会派であり、1540年にローマ法皇の公認を得た。この会派は海外伝導を主要な目的としたが、ロヨラは学問を重要視し、学校を建て宣教師にきびしい学問の訓練を行った。この精神は現在のイエズス会に受けつがれ、日本でもイエズス会経営の学校があり、中でも上智大学が有名である。ローマには Collegio Romano があり、ここは16世紀のユークリッドと呼ばれるドイツ生れのイエズス会士 Clavius が教鞭をとっていた。彼はグレゴリオ改暦の中心人物としても有名である。ここではギリシア以来の七科の学問が教えられ、ことに数学や天文学などの数理学が中心となった。イタリアに生れたリッチは早くからイエズス会にはいり、この学院で親しく Clavius から教えを受けた。キリスト教伝導のためはじめ日本に上陸したフランシスコ・ザビエルは、さらに中国伝導のため中国に向ったが、大陸にはいることができず、1552年に広州湾内の上川島で亡くなった。奇しくもこの年に生れたリッチはその遺志を継いで中国大陸への伝導に成功するとともに、西欧の数理学を紹介した。

1582年にマカオに到着したリッチは、時計やプリズムなどを贈って地方官の歓心を買ひ、当時広東省の中心都市であった肇慶府に住むことを許された。彼は中国語を学び中国の儒教古典を研究し、中国の学者に知己を求めたが、これがキリスト教伝導に成功した第1の原因であった。scholar-official という言葉があるように、中国では学者でなければ官僚になれなかった。彼はこうして官僚の支持を受けることに成功した。彼が布教の障害と考えたのは道教や仏教の僧侶であって、ことに仏教僧侶とはしばしば論戦している。その論戦には須彌山説の排斥が中心となった。周知のように仏教天文学では大地は平らでその中央に須彌山がそびえていた。日本では文化文政のころ、ヨーロッパ天文学説に脅威を感じた円通などの僧侶が仏教天文学を唱えたことは有名であるが、リッチは西欧の宇宙論を以て仏教僧侶を論駁するとともに、また科学者としての名声と尊敬を中国人知識層から獲得することができた。これが伝導に成功した第2の原因である。

リッチが肇慶に建てた教会には世界図が掲げられていたが、これをみた府知事の王洋は非常な関心を持ち、これを漢訳して出版したいと要請し、リッチはその要請

を受けて1584年に山海輿地全図という名で出版した。これは楕円形をした世界図で1570年にOrteliusが出版した地図その他を参考にし、さらに中国朝鮮日本などは中国で得たものを参考にした。当時ヨーロッパと中国との位置関係は明白でなかった。リッチは1583年11月と1984年5月の月食を観測しているが、これは肇慶の経度を測定することを目的としたと思われる。リッチの観測結果によると肇慶府は東経125°30'であった(平凡社東洋文庫本「マッテオ・リッチ伝I」による)。これはグリニジを基準とする現在値より13°ほど大きい。しかしこれはリッチの観測誤差ではなく、当時はグリニジの西にあたるカナリア群島(福島という)を基準としたためである。

リッチの漢訳世界図は中国で大きな反響を呼び数回にわたって出版されたが、リッチの北京入りの後、李之薄の手で1602年に改訂版が坤輿万国全図という名で出版された。この版は現在京都大学と宮城県立図書館に保存されている。これによって中国人は世界に五大州があり、中国以外に多くの国々があることを知ったが、特に大地が丸いという説を教えられた。中国にも漢代以来いくつかの宇宙論が唱えられ、中でも渾天説や蓋天説が有名であるが、何れも大地を平面と考えてきた。万国図には地球という言葉が出ているが、この言葉について万国図はごく初期の用例であろう。

リッチはキリスト教に反感を持つ中国人の迫害に苦しみながら、知己となった知識人の援助によって1601年に北京に入り、皇帝より住居を与えられキリスト教の全国布教を公認され、中国における伝導の基礎を築くことができた。さらに信者となった中国人大官徐光啓、李之薄などの助力を受け、Claviusの著書を中心に西欧の数理学を漢訳出版した。この中にはユークリッド幾何学書の前6巻を訳出した幾何原本などが含まれる。1629年には李之薄の手でリッチをはじめとする多くのイエズス会士の手になる科学書や教義書が天学初函の名で出版された。これらの書物は不幸にして寛永16年(1630)の禁書令によって輸入を禁止された。そのためにリッチの訳書は日本人の目にふれる機会はなかった。しかし万国図は早く輸入され、かなり多くの人々の注目をひいた。鎖国後の日本に潜入したイタリア生れのイエズス会士のSiddotiは江戸に送られて新井白石の退問を受けた。その時に白石はリッチの地図を持ち出しているところとヨーロッパの話の聞いたことが西洋紀聞にみえている。

リッチは1610年に北京で亡くなった。その死を惜しんだ万曆帝は北京郊外に大きな墓地を賜った。私がこの墓地を訪れたのは1938年であった。そこには教会があり、教会の側壁にリッチをはじめ多くの耶蘇会士の墓碑がはめこまれていた。共産革命によって宗教は弾圧され、いまはこの教会はなくなったが、数年前に北京を訪れた時にはリッチほか数人の耶蘇会士の墓碑が立派に保存されていた。(飯内 清)

平成元年8月20日

発行人 〒181 東京都三鷹市国立天文台内

社団法人 日本天文学会

印刷発行

印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12

啓文堂 松本印刷

定価 464円(本体 450円)

発行所 〒181 東京都三鷹市国立天文台内

社団法人 日本天文学会

電話 (0422) 31-1359

振替口座 東京 6-13595